



しづいぐりの共同生活

(一)

最近の嬉しいニュースは、「ケアセンターさざんか」建設に対して、国庫補助金の支給が確定になったことです。同じ時期に「デイサービスセンター真菜」の建設も予定していますので、もし「さざんか」に補助金がありなければ、「真菜」は高齢者施設で補助金は出ず、莫大な自己負担に苦しむところでした。今回の吉報に感謝しています。

この他、新しいニュースとしては、EPA生のインドネシア人セプティさんが、六月十四日当地に到着し、七月一日からは我が家に宿泊し始めたことがあります。

なぜ、我が家に住むことになったかという点、当地(牧之原市坂部)は交通の便が悪く通勤のための公共交通機関がないこと、また、実習先である聖ルカホームへ自転



車で通える範囲内には、適当な貸家が見つからなかったためです。

我が家はかつては「やまばとホーム」として、知的障害を持つ人たち四、五名(義姉のみぎわさんも含む)と、一般社会で働くことが難しい人たち二、三名、そして、長沢のお母さんがともに暮らしていました。したが、この他、助っ人のような方たちや、外国からの訪問者などが、幾度も流動的に入りに出て、多い時には、十数名がともに暮らしました。そんなわけで、

発行
 社会福祉法人 牧ノ原やまばと学園
 〒421-0412 静岡県 牧之原市 坂部 2151 番地 2
 TEL:0548-29-0221 FAX:0548-29-0157
 E-mail:honbu@yamabatogakuen.jp
 http://www.yamabatogakuen.jp/
 郵便振替 00800 - 6 - 14641
 頒価年額 600 円(千共) 1部 100 円(千共)
 (送料・消費税込み)
 寄付金の一部に購読料を含む場合があります。

(二)

かなり広い建物で、「老朽化」という問題はありますが、別棟に住めば住人のプライバシーは十分守られるので、EPA生のために「最適」ということになったのでした。

十数名がともに暮らした「やまばとホーム」も、長沢の入院・退院・療養等により変化を余儀なくされ、二〇〇七年に夫が召されてからは、初子さん(軽い知的障碍の女性)と私とのたった二人だけのホームになりました。そしてその初子さんも十年前に亡くなったので、以来私ひとりが広い建物に住んでいたわけですが、いろいろな経緯を経て、また再び共に住む人が与えられ、うれしいことです。

しかし、広い空間を占拠してきただけで、いつの間にかモノが増え、空室にも侵入?していたため、「セプティさん、受入れ」が決まっただけからは、私もモノの移動や片づけに追われる日々となりました。

そんな作業も一段落し、別棟の屋根の修理やトイレの改装等も何とか完了し、七月一日、つつがなくお迎えすることができました。

面白いのは、ぎりぎりまで品物がそろっていなかったのに、六月

(三)

末から七月初めにかけて集中的にスリッパや扇風機、布団やシーツ、ベッド、マット、机、エアコン、テレビ等が提供され、全ての必要品が何とか整ったことです。もしセプティさんの部屋の入口にカメラを取り付けていたら、様々の人がせかせかと慌ただしく出入りする様子が撮影されたことでしょう。

セプティさんは二十代の女性ですが、当地に来てまもなく、一人でもかなり遠くにあるスーパーまで自転車で買い物に出かけました。「よく道が分かったわねえ」と言うのと、「グーグルマップで探しました。これがあるから大丈夫です」とのこと。何と、彼女のスマホの中にはグーグルマップがあつて、牧之原市内の地図がインドネシア語で紹介されていたのでした!

ITの進歩によって、世界はどんどん狭くなっていることを実感させられました。別の件でも同じような思いにさせられました。

聖ルカホームで実習しているセプティさんは、仕事に慣れてきたら、他の職員と同じように、日曜日勤務しなければなりません。クリスチャンとして毎週教会で礼

拜を守っている彼女は、このことをどう考えているだろうと思いい質問したところ、「大丈夫です。ユーチューブで、インドネシアの教会の礼拝に参加します」との返事。インドネシアでは、コロナ感染防止のため、Zoomによる礼拝も多くなっているけれど、Zoomは登録が必要なので、もつと楽にアクセスできるユーチューブが多く提供されていることも分かりました。

DX(デジタルトランスフォーメイション)という言葉をしばしば聞くようになりましたが、実は、DXこそ、「IT化の浸透が、あらゆる面で人々の生活を変化させていくこと」を指す概念です。

(四)

この言葉は、二〇〇四年、スウェーデン・ウメオ大学のエリック・ストルターマン教授が論文の中で初めて提唱した言葉だそうで、その概念について「ITの浸透が、人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させる」と定義づけています。が、その後、DXは学問的な用語としてよりも、ビジネス的な面で解釈され定義づけられるようになり、日本では、二〇一八年に経済産業省が「DX推進ガイドライン」を発表。そこでは、次のように定義づけられています。

このようなIT化の進歩は、人々の人間関係や風習、文化なども徐々に変えていく結果になることでしょう。例えば、インドネシアと日本の市民が、スマホを通して情報交換し、盛んに交流し始めれば、隠されていたことが明らかになり、知らなかったことを知る機会になり、お互いに影響を受けざるを得なくなるわけです。

「企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立すること」。

結局、「DXとは、デジタル技術による変革。それも、ついには社

会全体の変革をもたらすもの」と言えそうですが、そうであるならば、ガイドラインの定義、「……を変革し、競争上の優位を得る」よりも、最初の定義「人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させる」という言葉が実現してほしいと、(素人ながら)願わされることです。

(五)

毎週日曜日に、セプティさんと私は榛原教会に出席していますが、礼拝が終わると、彼女を取り囲んで質問が次々に出ます。

「インドネシア語で、『おはようございます』は、何と言います?」

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」です。

「サラマツパギ」

夜勤業務の内容と取り組みについて

やまばと希望寮 澤田宏幸

希望寮の夜勤は16時半から始まります。勤務の最初に、当日の日課の責任者とナースの3名で、利用者さんの前日夜から当日日中の間の様子を確認します。

利用者さんがパニックを起こしたり大きな声で叫び、泣き出すような落ち着かない様子はなかったか。咳や発熱、鼻水等の風邪症状、また、発作や嘔吐、便秘等はないか。それら情緒面や体調面について、状況の伝達や確認を行い、それを基に、夜間における支援方法の指示がなされます。

その申し送り事項を終えると夕食支援、就寝支援を順番の職員と共に行います。21時半に宿直の職員が施設内の居室で休んだ後、夜勤職員一名による利用者さん30名の支援が始まります。深夜から早番職員が出勤する朝6時半までの夜勤業務はいつもの日中支援以上に責任を重く感じざるを得ません。希望寮に勤務して7年が経過し、夜勤を延べ200回以上経験している現在でも、毎回当業務には多大な緊張感を持って臨んでいます。

夜の時間帯利用者さんはパンジー棟とさくら棟、コスモス棟の3

か所に別れて就寝されます。コスモス棟には、若くて元気な男性利用者さんが多く、あつと驚くような様々な行動を起こします。例えば、さくら棟とパンジー棟で支援を行っている間に、コスモス棟では、AさんがBさんやCさんの衣類を脱がしてしまい全裸になった利用者さんが大声で叫びながらホールを走り回ります。Dさんが床に排尿や排便を始め、それをEさんが足で踏んでしまい床のあちこちに散乱させます。

職員が他の棟の支援から戻るまでの30分程の間に、コスモス棟はとんでもない状況になっているのです。そんなことがあつても、職員一人一人が常に落ち着き冷静に行動できるように毎月の寮全体会議で支援マニュアルを基に利用者さんの驚くべき行動に関する対処方法を学び、職員セルフチェックリストで自分の行動の振り返りを行っています。

時には余りの出来事に呆然として何から対処しようかと考えてしまつことも多々ありますが、自分の気持ちの焦りが万がにも利用者さんへの虐待行為に繋がらないよう心を落ち着かせ、利用者さんへの親愛の思いを取り戻して、部屋の清掃に全力を傾けるのです。

(生活支援員)

アンガーマネジメント

グレイス 縄巻昭子

「怒りと上手に付き合う」日々、利用者様の言動に一喜一憂しますが、人生の大先輩であると思ふけとめ、母だったら父だったらと身内に置き換える事で、怒りを感じる事も少ないです。

ですが、一人では解決できない突発な出来事も多々あります。

入所されて数日間、言葉を発せられない女性でした、起床時に衣類が濡れていて失禁が続いていることで落ち込まれていました。私は何んとかしなければとの思いから就寝前にトイレに行かれた際に、夜間用のパットを、試してみましようかと勧めたところ、振り払ったのです。ここで私も引き下がればよかったのですが、「ゆっくり休めますよ」と再度勧めた時、悲鳴のような声で激怒され、あわてての謝罪も伝わらず、私を睨んだ

ままトイレから出てこられませんでした。遅番職員は私一人だったので、途方に暮れてしまいました。

お互いの感情を切り替えなければと思い、他ユニットの男性職員と交代し対応をお願いしました。その方は、職員が代わり気持ちも切り替えたのか、その職員と共に部屋に戻られました。

この事態を職員間で話し合い「安心して起床するために、無理強いせず夜間用パットを使用する」支援を開始しました。数週間を要しましたが、夜間用パットは、手元に置く事で自ら使用される様になり、私との関係も変わっていきましました。敬意を表す対応に努めた結果、何事も無かった様に接して下さっています。

一人で抱えず職員間で共有する事で解決できた事例です。

これからも、利用者様、職員の方々への敬意を大切にしていきたいです。

(介護員)

50周年記念誌「それでも一緒に歩いていく」を読んで

「ワークセンター希望の家」&「ワークセンターふれあい」のスタッフたちの感想

(1) やまばと学園の歴史

- ・後書きの中の「職員にも利用者にもいろんな人が…」の文面を読んで、まさに私がいつも思っている事だと感じました。いろんな部分を持った皆がいて、その方たちと一緒にやっていくという気持ちは当施設でも一番大事にしていきたいし利用者さんにも伝えていきたい事だと思いました。
- ・差別甚だしかった時代にあえて障碍の重い方の支援に手を挙げるということは、逆風が多かっただろうと、無知な私にも容易に想像がつかます。その中で児童から始まり、成人へ、高齢者へ事業形態を広げていく、法人の姿を変えていくのは、まさに『ともに生きる』の表われであると理解できました。
- ・『温故知新』 巖前理事長の精神を受け継ぎつつも、常に前を向き ICT や IOT を取り入れようとする、現理事長の向学心や挑戦に感服です。カタカナ語や英語が網羅する昨今、私は(これって…何の略?日本語に訳すと何?)と思うばかり…学びは大事ですね。
- ・重度の障碍児を社会全体で担うべきという創設者長澤巖さんの考えに基づいてやまばと学園が生まれ、病に倒れた後でもキリスト教を根拠とした理念を後々まで継承され、福祉が進んだ現代でも変わらないでいる。創設者が亡くなくても、伝えたかった『魂』は生き続け、歴史となっているのだと思いました。

(2) やまばと学園の精神や目的

- ・『障碍を持つ人々を本当に重んじる』とは、ご利用者の支援を閉鎖的な空間で、限られた人で行うことではなく、社会にも開かれた支援を行うことだと思いました。
- ・『ともに生きる』という目的は、一方的に憐れむということではなく、相互に受け入れ、受け入れられ、教え、教えられる関係を築くことだと知った。
- ・1960年代は、まだ在日している外国人も少ない中であり、地方(榛原)で活動されたマクラクラン先生はすごいと思います。
- ・重度の成人の方とも毎日接触していますが、その精神力の強さに逆に自分が力をもらった気になり、この人と共に生きていることを実感しています。

(3) 障碍者をどうみるか

- ・記事を読み、数年前の悲しい事件や、生まれてきた我が子を安楽死にと考える時代のこと等、この本で一番悲しい部分だと思いました。障害とか高齢とか関係なく、世の中に必要無い人なんかいないと思うし、いつか自分が弱い立場になっても当施設の利用者さんみたいに笑って毎日過ごしたいと思う。
- ・身近ではありませんが、何人かダウン症の子がいました。皆とても明るい子達でした。親御さん達に愛されているんだなと思いました。『差別』という事は自身で感じたことは有りませんでした。障碍のある方にとっては、私が差別と思っていなくても、敏感に感じ取ってしまう事があると思います。
- ・巖先生の言われた『障碍者のために働くことは、自分自身の中の偏見との闘い』というのは、常に私の中にあります。
- ・障碍者と呼ばれる皆さんはいつも相手を受け入れて下さいます。私はその方たちにとっても助けられています。
- ・私はこの仕事に就き、普通とは、当たり前とは何か、考えさせられます。風・光・香りなど、シンプルに五感で楽しむご利用者の方が『普通』であって、五感にフィルターをかけている『障碍』を作っているのは私の方なのかもしれないと感じます。

(4) 高齢者をどうみるか

- ・ここ数年、利用者さんの高齢化に伴い、高齢者部門との関りが増えています。本を読み、1981年の聖ルカホームの開設が、今に繋がっている事、前理事長の先を見据えた思いがあった事を読み取る事ができました。
- ・以前は、年を取ってみんなに迷惑を掛けたくない、とっていました。しかしそれは無理ですね。お世話にして下さる人に感謝できる人になりたいです。
- ・エリクソンの言葉『老いると同時に成長』『苦難を味わいながら喜びを得る』『絶望しながら希望を持つ』は、なかなか難しい。自身が老いを自覚していればなおのこと、だから周りの支えが必要なのでしょう。
- ・家族のつながりや人間のつながりの大切さ、家族と暮らせる老後など…それができない人は沢山いらっしゃいます。その為にも、老人ホームは必要だと思いました。

(5) 職員の任務・介護について

- ・印象強く感じた点は二つ。一つは学園の役割は「生命の保護」、それは「利用者さんの権利を守る事」だと書かれていました。入所施設の利用者さんに限らず、通所の利用者さんにも同じ事が言えます。地域の中で生活しているからこそ、虐待や権利侵害の矢面に立たされていることがあり、それは本人が気づかない間に起きている事もあります。二つ目は、佐々木炎先生の講演の中の言葉。「命を守る」「利用者さんとの強い関係性を作る」「利用者さんが成長する為の苦労を理解する」の3点。「大切なのは困っている人の傍へ自ら寄り添い、まず気持ちを共感する」…昨年の研修で学んだ事が頭に浮かびました。

- ・「利用者に寄り添う支援」は、答えがあるようでない。私にとって果てしない永遠のテーマである。昔は『介護の仕事に就きたい』と考えていたが、とても安易な考えだったと思う。
- ・ご利用者の権利を守り、可能性を引き出す事が、職員の仕事だと思います。また愛を持ってご利用者の話に耳を傾け、その人の人生を知り、共感しながら、生きがいを見つけ導くことではないかと思います。
- ・認知症の進行具合は目に見えてわかり、家族は(1年前は出来ていた・覚えていた)と落胆するが、本人が一番辛いでしょう。その時、支える側の言葉掛けには十分な注意が必要と思う。
- ・生きている以上、老いは他人事ではなく、自分事。そのことを念頭に1981年には法人が特養建設に取り組まれたことは、“ともに生きる”ことへの真実さ・誠実さの表れだと思った。今までできていたことができなくなっていくても、失っていくことの中にも成長する部分があるということを、ケアする側もされる側も認識できたら、良い関係が生まれると思う。

(6) 障害を持った方の価値・若い人たちの印象

- ・12年前野ばらへ実習に行った際、ご利用者と職員が歌う「ドレミの歌」を聞いて感動したのを覚えています。特別感動する歌でも歌詞でもなかったのに、その体験がここで働きたいと思うきっかけになりました。
- ・若者へ影響を与え、笑顔にする力を持つ障害を持った方々の存在は尊いと感じます。多くの若者が障害を持った方と触れる機会を得ることが出来たら、社会の障害者への理解は変わるはず。
- ・私が感じたことと同じことを若い方々が感じていた。私が50歳を過ぎて知ったことを学生の時に知ったということは、今後の生き方に大きい影響を与えると思う。障害者と呼ばれる人たちにしかできないことがあり、接してみなければわからないことがある。
- ・学生の頃、自分も特殊学級とか、〇〇学園などに対して、暗い印象を持っていました。この仕事をする中で、それは全く変わりました。皆さんに出会えて良かった。
- ・障害を持った方に触れて、普通の人と変わらないと理解してくださった事に感動しました。不良高校生が実習した時、私も関わりましたが、障害を持った方達との出会いを通して彼も変わったのだと思います。卒業式のときには、施設へ立ち寄り卒業証書を見せて下さいました。律儀な方でした。

(7) 家族の想い・兄弟の絆

- ・親と兄弟では立場も思いも違いますが、私も弟が知的障害を持っていることから、子供の頃は、「知恵遅れの子がいる」と言われ、子供ながらに偏見を感じてきました。なんでうちにいるんだろう?とっていました。しかし、今の職業へ着いたことも弟の影響で、今となっては感謝です。
- ・ご家族にとってやまばと学園とは、ご利用者と一緒に生きてくれる、一緒に年をとってくれる存在です。入所を決断し、罪悪感や償いの気持ちと闘うご家族にとって、少しでもやまばと学園を選んで良かったと感じていただくことが、ご家族の後ろめたさという心の負担を軽くすることにつながればと思います。
- ・親なき後、子どもがどうなるのかと、どの家族も一番心配していることがわかります。またかわいいわが子を学園に預ける苦悩や預けた後の複雑な想いを大変切なく感じました。また御家族に障害を持っている方がいるからこそ、家族の絆が強くなるのだと思いました。
- ・今、出生前診断のことが取り上げられることが多いが、その結果胎児に異常のあることがわかったら、果たして自分だったらどんな結論を出すだろうか。生まれてきた子を100%愛せるだろうか。
- ・自分の子どもが障害者だと受け入れるまでの葛藤や、実際の生活での問題、将来親が亡くなった後のこと等、計り知れない辛さを抱えて生きていく家族が、いま自分が接している利用者さんたちの背後にいらっしやる。せめて、この施設を利用して良かったと思っていただけるような支援ができればと思う。

(8) 先輩職員の働き

- ・先輩職員達の食事支援の文章を読み、「半歩すすんで3歩下がって…」と、毎日の大変さが目に浮かびました。どれも、年単位の長い時間をかけてご利用者さんの支援に関わってきた内容であり、これもやまばとの支援の歴史の一つとして、機会があれば直接お話を聞いてみたいと思いました。
- ・当施設に勤めて5年経ちましたが、まだまだ利用者さんのことはわからないことばかりです。日々、正規職員の行動や言動を盗み見し、吸収していきたいと思います。
- ・職員のご苦労。進歩と後退、長期戦。大変なお仕事だと思いました。尊敬します。
- ・重度障害の方を見る事は簡単ではなく、自立に向けて決して甘やかせず、可能性を信じて情熱を持ち、懸命に指導している様子が分かります。当時は給料等も低かったと思いますが、奉仕の心を持ち、ご利用者に共感し、ともに生きる姿は、今後自分のお手本とさせていただきたいと思いました。
- ・のんびりしている利用者さんや思うように手を動かせない利用者さんに、つつい手を貸してしまう。しかし、根気よく付き合っ、自分でできるようになるよう努めることが支援ではないかと思った。
- ・沢山の項目を作って出来ることは〇。その人ごとの目標を立て、記録をつけ、変化を見る。今から50年前から、そのようなケアをされていたことを知り、驚きました。
- ・少しずつ少しずつ子どもたちに教えてあげて、それが出来た時の喜びが書かれていますが、その努力は大変なものだったと、想像を絶する思いがしました。

2020(令和2)年度 社会福祉法人牧ノ原やまばと学園決算報告

2020年度も皆様のご支援やお祈りに支えられ活動を終了できましたことを心から感謝申し上げます。

2020年度の事業活動計算書(決算)について説明しますと、当法人の主たる福祉活動収益は、約21億9,600万円、支出は20億6,400万円、サービス活動増減差額は1億3,161万円となりました

本年の決算の特徴は、拠点区分間繰入金収入や拠点区分間繰入金支出の金額が大きいことですが、これは、当年は原則として各事業所で積み立てをせず、法人からの貸付金返済のため協力したり、法人に資金が潤沢に回るよう工夫したためです。

牧ノ原やまばと学園は、高齢者を対象にした福祉事業と、障害者を対象にした福祉事業を行っていますが、障害者部門に関しては、「レタスクラブ(心を病む人たちのための居場所づくり)」の赤字を除いて、おおむね収支に問題はないと言えます。

高齢部門に関しては、グレイス、すずらん、シャロームの借地に関する「原状回復費、10年間の支払い」が完了しました。小規模特養ホームの経営は厳しい面がありますが、数年前に長期借入金を一括返済していますので、今後は、さらに身軽な視点で経営改善に取り組めると思います。

居宅介護支援事業所「シャローム」は、適切な有資格者の確保が難しく、長年赤字が続いていますが、好転する条件がそろそろ努力したく思います。また、介護予防拠点施設「ぶどうの木」が初めて赤字になりましたので、原因等を把握し、改善に努める予定です。

詳しい内容をご覧になりたい場合は、各事業所にあります事業報告・決算報告書をご覧ください。

寄付金収支内訳

2020年度も多くの皆様よりご支援を賜りましたことを心から感謝申し上げます。

(単位:円)

収入内訳	一般会計	
	寄付金	金額
本部取扱い分	寄付金	13,200,254
	誌代として計上した寄付金	2,305,476
	小計	15,505,730
事業所取扱い分		2,603,537
合計		18,109,267

支出内訳

支出内訳		金額
機関紙代		2,305,476
建設工事関連費用※		13,200,254
その他費用		2,603,537
合計		18,109,267

※2021年度内事業のケアセンターさざんか(仮称)及びデイサービスセンター真菜建設工事関連費用に活用させていただきました。

牧ノ原やまばと学園貸借対照表

(2021年3月31日現在)

(単位:円)

資産の部		負債の部	
科目	当年度末	科目	当年度末
流動資産	1,255,809,720	流動負債	233,939,960
固定資産	3,390,268,095	固定負債	596,505,182
基本財産	2,128,197,973	負債の部合計	830,445,142
その他の固定資産	1,262,070,122	純資産の部	
		基本金	542,667,132
		国庫補助金等特別積立金	644,410,804
		その他の積立金	894,974,000
		次期繰越活動増減差額	1,733,580,737
		純資産の部合計	3,815,632,673
資産の部合計	4,646,077,815	負債及び純資産の部合計	4,646,077,815

助成に関して

助成金をいただいて、以下のものを購入しました。感謝して報告いたします。

(単位:円)

助成団体名	事業所名	物品名	助成金
交通安全推進活動等助成金(鳥田市安全運転協会)	垂穂寮	交通安全活動推進のため	10,000
NHK歳末たすけあい助成金(静岡県共同募金会)	養護老人ホーム相寿園	クリスマス会経費、新年会経費	164,000
NHK歳末たすけあい助成金(静岡県共同募金会)	養護老人ホームぎんもくせい	新年会経費	202,000
敬老会実施事業費助成金(鳥田市)	養護老人ホームぎんもくせい	敬老会費用	33,600

牧ノ原やまばと学園資金収支計算書

(自 2020 年 4 月 1 日 至 2021 年 3 月 31 日)

(単位：円)

		勘定科目	決算
事業活動による収支	収入	介護保険事業収入	757,312,656
		老人福祉事業収入	230,286,192
		就労支援事業収入	50,020,397
		障害福祉サービス等事業収入	1,128,947,898
		医療事業収入	4,226,820
		その他の事業収入	5,904,740
		借入金利息補助金収入	0
		経常経費寄附金収入	15,803,790
		受取利息配当金収入	166,419
		その他の収入	10,365,090
	事業活動収入計(1)	2,203,034,002	
	支出	人件費支出	1,369,479,874
		事業費支出	314,455,682
		事務費支出	196,512,669
		就労支援事業支出	51,729,009
		利用者負担軽減額	1,357,767
		支払利息支出	3,461,999
その他の支出		3,459,051	
事業活動支出計(2)		1,940,456,051	
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	262,577,951		
施設整備等による収支	収入	施設整備等補助金収入	3,486,573
		固定資産売却収入	22,000
		施設整備等収入計(4)	3,508,573
	支出	設備資金借入金元金償還支出	21,065,568
		固定資産取得支出	80,957,148
		固定資産除却・廃棄支出	55,300
		ファイナンス・リース債務の返済支出	3,365,928
その他の施設整備等による支出	3,664,005		
施設整備等支出計(5)	109,107,949		
施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	△ 105,599,376		
その他の活動による収支	収入	積立資産取崩収入	10,144,603
		その他の活動収入計(7)	10,144,603
	支出	積立資産支出	44,352,440
		その他の活動による支出	1,865,400
		その他の活動支出計(8)	46,217,840
		その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	△ 36,073,237
予備費支出(10)	0		
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)	120,905,338		
前期末支払資金残高(12)	1,000,048,969		
当期末支払資金残高(11)+(12)	1,120,954,307		

牧ノ原やまばと学園事業活動計算書

(自 2020 年 4 月 1 日 至 2021 年 3 月 31 日)

(単位：円)

		勘定科目	決算
サービス活動増減の部	収益	介護保険事業収益	757,312,656
		老人福祉事業収益	230,286,192
		就労支援事業収益	50,020,397
		障害福祉サービス等事業収益	1,128,947,898
		医療事業収益	4,226,820
		その他の事業収益	5,904,740
		経常経費寄附金収益	15,803,790
		その他の収益	3,684,738
		サービス活動収益計(1)	2,196,187,231
		費用	人件費
	事業費		317,133,461
	事務費		196,552,665
	就労支援事業費用		51,843,937
	利用者負担軽減額		1,357,767
	減価償却費		170,923,795
	国庫補助金等特別積立金取崩額		△ 52,726,617
	サービス活動費用計(2)	2,064,572,954	
サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)	131,614,277		
サービス活動外増減の部	収益	借入金利息補助金収益	0
		受取利息配当金収益	166,419
		その他のサービス活動外収益	6,680,352
	費用	サービス活動外収益計(4)	6,846,771
		支払利息	3,461,999
		その他のサービス活動外費用	3,479,651
サービス活動外費用計(5)	6,941,650		
サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)	△ 94,879		
経常増減差額(7)=(3)+(6)	131,519,398		
特別増減の部	収益	施設整備等補助金収益	3,486,573
		固定資産受贈額	1
		固定資産売却益	21,999
		その他の特別収益	105,600
		特別収益計(8)	3,614,173
	費用	基本金組入額	0
		固定資産売却損・処分損	757,801
		国庫補助金等特別積立金取崩額(除却等)	△ 98,280
		国庫補助金等特別積立金積立額	3,486,573
		その他の特別損失	210,659
特別費用計(9)	4,356,753		
特別増減差額(10)=(8)-(9)	△ 742,580		
当期活動増減差額(11)=(7)+(10)	130,776,818		
繰越活動増減差額の部	前期繰越活動増減差額(12)	1,629,103,919	
	当期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)	1,759,880,737	
	基本金取崩額(14)	0	
	その他の積立金取崩額(15)	3,000,000	
	その他の積立金積立額(16)	29,300,000	
	次期繰越活動増減差額(17)=(13)+(14)+(15)-(16)	1,733,580,737	

歩みのあと

(5月1日〜6月30日)

●全体的なこと

▼五月〜六月末 施設関係者へのワ
クチン接種がドクターを初め医
療関係者のご協力により行われ
た。但し、市町によつて、開始時期
や接種条件、接種対象者が違う
ので、各事業所の実施進捗状況
はまちまち。

▼2021年6月19日定時評議
員会総結をもち、次の新役員
等が選任された。

《評議員》(任期4年) 敬称略ア
イウエオ順
柴田敏 杉本正、外岡潤、田島逸
雄、長谷川清太、早川ひろみ、久
田則夫、渡辺紀久子、山城厚生
《理事長》(任期2年) 長澤道子
《理事》(任期2年) 姉崎弘、大石
幸、金子初子、神谷美代枝、佐々
木炎、松田正幸

《監事》(任期2年) 鈴木武、松浦
隆雄

●個別のニュース

《法人》新年度研修(5/22) 事
故防止委員会(5/25) 第
一度事業報告と決算の審議を初
め、六月の定時評議員会や理事
会開催に必要な事項等を審議。
評議員選任解任委員会(6/6)
1. 新評議員を選任。2. 日
キ社事同オンライン研修。総会
ちが参加。3. 理事長と職員た
ちが4. 定時評議員会(6/19)
19. 主な議案は「理事及び監
事の選任について」「計算書類及
び財産目録の承認の件」等。
同日午後には、第2回理事会。
主な議案は「理事長の選定につ
いて」等。牧之原市社会福祉
協議会評議員会に長沢理事
長出席(6/23) 管理者と主
任等対象の「スパービジョン研
修」(6/30)、講師は久田則夫
先生。

《垂穂寮》長年ともに暮らした西
村富美子さんが聖ルカへ転出。何
となく寂しい。(5/28) 保護

者の皆様が草刈り奉仕、中庭な
ど大変きれいになり感謝(5/30)
30. 食中毒について藤倉栄養
士より学ぶ(6/25) スヌーズ
レンルーム整備

《みぎわ》6月の誕生会がケーキで
お祝い。

《野ばら》ご利用者の櫻井絵美さ
んに「逝去(6/4)、楽しい出会
いに感謝。自閉症について職
員研修、講師は大石昭利氏。
「やま」と希望寮」楽しい運動会
(6/2) 強度行動障碍。志
太様原施設連絡会(6/11)
床暖房のリモコン劣化で故障。
《わかば》もくろん夜勤専門職員
の実習。倉庫にダウンライト照
明を設置。

《さざんか》Wooやまばと製のコッ
ペパンでたまごサンド&フルーツサ
ンドづくり。(5/21) WooCふ
れあひから無償提供の梅の実で
ジュースづくり。(5/24) 野菜
を包丁で切り、スタンプにして色
を付け、ポンポンと画用紙に押し
と、玉ねぎがカッターに、オクラが
アシサイに「大いに楽しむ。」
誕生会では、ミニカップの塩ラ
メン、醤油ラーメン、豚骨ラーメ
ン等々から、好きなものを選び、選んで
頂く。あれこれ迷う人も。6. 新
年度研修、職員四名参加(5/22)
《希望の家：ふれあひ》④地域活
動の日、周辺のごみ拾い。(5/28)
5. ⑦家山川梅園の梅の実を
6. 8. 2kg収穫。今年塩漬漬に
せずそのまま販売し完売。交
通指導員をお招きして、交通安
全教室。今回も自転車組徒歩
組に別れて学習。6/17 ⑦. 6
23. ⑧. ⑨. ⑩. ⑪. ⑫. ⑬. ⑭. ⑮. ⑯. ⑰. ⑱. ⑲. ⑳. ㉑. ㉒. ㉓. ㉔. ㉕. ㉖. ㉗. ㉘. ㉙. ㉚. ㉛. ㉜. ㉝. ㉞. ㉟. ㊱. ㊲. ㊳. ㊴. ㊵. ㊶. ㊷. ㊸. ㊹. ㊺. ㊻. ㊼. ㊽. ㊾. ㊿. ㏀. ㏁. ㏂. ㏃. ㏄. ㏅. ㏆. ㏇. ㏈. ㏉. ㏊. ㏋. ㏌. ㏍. ㏎. ㏏. ㏐. ㏑. ㏒. ㏓. ㏔. ㏕. ㏖. ㏗. ㏘. ㏙. ㏚. ㏛. ㏜. ㏝. ㏞. ㏟. ㏠. ㏡. ㏢. ㏣. ㏤. ㏥. ㏦. ㏧. ㏨. ㏩. ㏪. ㏫. ㏬. ㏭. ㏮. ㏯. ㏰. ㏱. ㏲. ㏳. ㏴. ㏵. ㏶. ㏷. ㏸. ㏹. ㏺. ㏻. ㏼. ㏽. ㏾. ㏿. 㐀. 㐁. 㐂. 㐃. 㐄. 㐅. 㐆. 㐇. 㐈. 㐉. 㐊. 㐋. 㐌. 㐍. 㐎. 㐏. 㐐. 㐑. 㐒. 㐓. 㐔. 㐕. 㐖. 㐗. 㐘. 㐙. 㐚. 㐛. 㐜. 㐝. 㐞. 㐟. 㐠. 㐡. 㐢. 㐣. 㐤. 㐥. 㐦. 㐧. 㐨. 㐩. 㐪. 㐫. 㐬. 㐭. 㐮. 㐯. 㐰. 㐱. 㐲. 㐳. 㐴. 㐵. 㐶. 㐷. 㐸. 㐹. 㐺. 㐻. 㐼. 㐽. 㐾. 㐿. 㑀. 㑁. 㑂. 㑃. 㑄. 㑅. 㑆. 㑇. 㑈. 㑉. 㑊. 㑋. 㑌. 㑍. 㑎. 㑏. 㑐. 㑑. 㑒. 㑓. 㑔. 㑕. 㑖. 㑗. 㑘. 㑙. 㑚. 㑛. 㑜. 㑝. 㑞. 㑟. 㑠. 㑡. 㑢. 㑣. 㑤. 㑥. 㑦. 㑧. 㑨. 㑩. 㑪. 㑫. 㑬. 㑭. 㑮. 㑯. 㑰. 㑱. 㑲. 㑳. 㑴. 㑵. 㑶. 㑷. 㑸. 㑹. 㑺. 㑻. 㑼. 㑽. 㑾. 㑿. 㒀. 㒁. 㒂. 㒃. 㒄. 㒅. 㒆. 㒇. 㒈. 㒉. 㒊. 㒋. 㒌. 㒍. 㒎. 㒏. 㒐. 㒑. 㒒. 㒓. 㒔. 㒕. 㒖. 㒗. 㒘. 㒙. 㒚. 㒛. 㒜. 㒝. 㒞. 㒟. 㒠. 㒡. 㒢. 㒣. 㒤. 㒥. 㒦. 㒧. 㒨. 㒩. 㒪. 㒫. 㒬. 㒭. 㒮. 㒯. 㒰. 㒱. 㒲. 㒳. 㒴. 㒵. 㒶. 㒷. 㒸. 㒹. 㒺. 㒻. 㒼. 㒽. 㒾. 㒿. 㓀. 㓁. 㓂. 㓃. 㓄. 㓅. 㓆. 㓇. 㓈. 㓉. 㓊. 㓋. 㓌. 㓍. 㓎. 㓏. 㓐. 㓑. 㓒. 㓓. 㓔. 㓕. 㓖. 㓗. 㓘. 㓙. 㓚. 㓛. 㓜. 㓝. 㓞. 㓟. 㓠. 㓡. 㓢. 㓣. 㓤. 㓥. 㓦. 㓧. 㓨. 㓩. 㓪. 㓫. 㓬. 㓭. 㓮. 㓯. 㓰. 㓱. 㓲. 㓳. 㓴. 㓵. 㓶. 㓷. 㓸. 㓹. 㓺. 㓻. 㓼. 㓽. 㓾. 㓿. 㔀. 㔁. 㔂. 㔃. 㔄. 㔅. 㔆. 㔇. 㔈. 㔉. 㔊. 㔋. 㔌. 㔍. 㔎. 㔏. 㔐. 㔑. 㔒. 㔓. 㔔. 㔕. 㔖. 㔗. 㔘. 㔙. 㔚. 㔛. 㔜. 㔝. 㔞. 㔟. 㔠. 㔡. 㔢. 㔣. 㔤. 㔥. 㔦. 㔧. 㔨. 㔩. 㔪. 㔫. 㔬. 㔭. 㔮. 㔯. 㔰. 㔱. 㔲. 㔳. 㔴. 㔵. 㔶. 㔷. 㔸. 㔹. 㔺. 㔻. 㔼. 㔽. 㔾. 㔿. 㕀. 㕁. 㕂. 㕃. 㕄. 㕅. 㕆. 㕇. 㕈. 㕉. 㕊. 㕋. 㕌. 㕍. 㕎. 㕏. 㕐. 㕑. 㕒. 㕓. 㕔. 㕕. 㕖. 㕗. 㕘. 㕙. 㕚. 㕛. 㕜. 㕝. 㕞. 㕟. 㕠. 㕡. 㕢. 㕣. 㕤. 㕥. 㕦. 㕧. 㕨. 㕩. 㕪. 㕫. 㕬. 㕭. 㕮. 㕯. 㕰. 㕱. 㕲. 㕳. 㕴. 㕵. 㕶. 㕷. 㕸. 㕹. 㕺. 㕻. 㕼. 㕽. 㕾. 㕿. 㖀. 㖁. 㖂. 㖃. 㖄. 㖅. 㖆. 㖇. 㖈. 㖉. 㖊. 㖋. 㖌. 㖍. 㖎. 㖏. 㖐. 㖑. 㖒. 㖓. 㖔. 㖕. 㖖. 㖗. 㖘. 㖙. 㖚. 㖛. 㖜. 㖝. 㖞. 㖟. 㖠. 㖡. 㖢. 㖣. 㖤. 㖥. 㖦. 㖧. 㖨. 㖩. 㖪. 㖫. 㖬. 㖭. 㖮. 㖯. 㖰. 㖱. 㖲. 㖳. 㖴. 㖵. 㖶. 㖷. 㖸. 㖹. 㖺. 㖻. 㖼. 㖽. 㖾. 㖿. 㗀. 㗁. 㗂. 㗃. 㗄. 㗅. 㗆. 㗇. 㗈. 㗉. 㗊. 㗋. 㗌. 㗍. 㗎. 㗏. 㗐. 㗑. 㗒. 㗓. 㗔. 㗕. 㗖. 㗗. 㗘. 㗙. 㗚. 㗛. 㗜. 㗝. 㗞. 㗟. 㗠. 㗡. 㗢. 㗣. 㗤. 㗥. 㗦. 㗧. 㗨. 㗩. 㗪. 㗫. 㗬. 㗭. 㗮. 㗯. 㗰. 㗱. 㗲. 㗳. 㗴. 㗵. 㗶. 㗷. 㗸. 㗹. 㗺. 㗻. 㗼. 㗽. 㗾. 㗿. 㘀. 㘁. 㘂. 㘃. 㘄. 㘅. 㘆. 㘇. 㘈. 㘉. 㘊. 㘋. 㘌. 㘍. 㘎. 㘏. 㘐. 㘑. 㘒. 㘓. 㘔. 㘕. 㘖. 㘗. 㘘. 㘙. 㘚. 㘛. 㘜. 㘝. 㘞. 㘟. 㘠. 㘡. 㘢. 㘣. 㘤. 㘥. 㘦. 㘧. 㘨. 㘩. 㘪. 㘫. 㘬. 㘭. 㘮. 㘯. 㘰. 㘱. 㘲. 㘳. 㘴. 㘵. 㘶. 㘷. 㘸. 㘹. 㘺. 㘻. 㘼. 㘽. 㘾. 㘿. 㙀. 㙁. 㙂. 㙃. 㙄. 㙅. 㙆. 㙇. 㙈. 㙉. 㙊. 㙋. 㙌. 㙍. 㙎. 㙏. 㙐. 㙑. 㙒. 㙓. 㙔. 㙕. 㙖. 㙗. 㙘. 㙙. 㙚. 㙛. 㙜. 㙝. 㙞. 㙟. 㙠. 㙡. 㙢. 㙣. 㙤. 㙥. 㙦. 㙧. 㙨. 㙩. 㙪. 㙫. 㙬. 㙭. 㙮. 㙯. 㙰. 㙱. 㙲. 㙳. 㙴. 㙵. 㙶. 㙷. 㙸. 㙹. 㙺. 㙻. 㙼. 㙽. 㙾. 㙿. 㚀. 㚁. 㚂. 㚃. 㚄. 㚅. 㚆. 㚇. 㚈. 㚉. 㚊. 㚋. 㚌. 㚍. 㚎. 㚏. 㚐. 㚑. 㚒. 㚓. 㚔. 㚕. 㚖. 㚗. 㚘. 㚙. 㚚. 㚛. 㚜. 㚝. 㚞. 㚟. 㚠. 㚡. 㚢. 㚣. 㚤. 㚥. 㚦. 㚧. 㚨. 㚩. 㚪. 㚫. 㚬. 㚭. 㚮. 㚯. 㚰. 㚱. 㚲. 㚳. 㚴. 㚵. 㚶. 㚷. 㚸. 㚹. 㚺. 㚻. 㚼. 㚽. 㚾. 㚿. 㜀. 㜁. 㜂. 㜃. 㜄. 㜅. 㜆. 㜇. 㜈. 㜉. 㜊. 㜋. 㜌. 㜍. 㜎. 㜏. 㜐. 㜑. 㜒. 㜓. 㜔. 㜕. 㜖. 㜗. 㜘. 㜙. 㜚. 㜛. 㜜. 㜝. 㜞. 㜟. 㜠. 㜡. 㜢. 㜣. 㜤. 㜥. 㜦. 㜧. 㜨. 㜩. 㜪. 㜫. 㜬. 㜭. 㜮. 㜯. 㜰. 㜱. 㜲. 㜳. 㜴. 㜵. 㜶. 㜷. 㜸. 㜹. 㜺. 㜻. 㜼. 㜽. 㜾. 㜿. 㝀. 㝁. 㝂. 㝃. 㝄. 㝅. 㝆. 㝇. 㝈. 㝉. 㝊. 㝋. 㝌. 㝍. 㝎. 㝏. 㝐. 㝑. 㝒. 㝓. 㝔. 㝕. 㝖. 㝗. 㝘. 㝙. 㝚. 㝛. 㝜. 㝝. 㝞. 㝟. 㝠. 㝡. 㝢. 㝣. 㝤. 㝥. 㝦. 㝧. 㝨. 㝩. 㝪. 㝫. 㝬. 㝭. 㝮. 㝯. 㝰. 㝱. 㝲. 㝳. 㝴. 㝵. 㝶. 㝷. 㝸. 㝹. 㝺. 㝻. 㝼. 㝽. 㝾. 㝿. 㞀. 㞁. 㞂. 㞃. 㞄. 㞅. 㞆. 㞇. 㞈. 㞉. 㞊. 㞋. 㞌. 㞍. 㞎. 㞏. 㞐. 㞑. 㞒. 㞓. 㞔. 㞕. 㞖. 㞗. 㞘. 㞙. 㞚. 㞛. 㞜. 㞝. 㞞. 㞟. 㞠. 㞡. 㞢. 㞣. 㞤. 㞥. 㞦. 㞧. 㞨. 㞩. 㞪. 㞫. 㞬. 㞭. 㞮. 㞯. 㞰. 㞱. 㞲. 㞳. 㞴. 㞵. 㞶. 㞷. 㞸. 㞹. 㞺. 㞻. 㞼. 㞽. 㞾. 㞿. 㟀. 㟁. 㟂. 㟃. 㟄. 㟅. 㟆. 㟇. 㟈. 㟉. 㟊. 㟋. 㟌. 㟍. 㟎. 㟏. 㟐. 㟑. 㟒. 㟓. 㟔. 㟕. 㟖. 㟗. 㟘. 㟙. 㟚. 㟛. 㟜. 㟝. 㟞. 㟟. 㟠. 㟡. 㟢. 㟣. 㟤. 㟥. 㟦. 㟧. 㟨. 㟩. 㟪. 㟫. 㟬. 㟭. 㟮. 㟯. 㟰. 㟱. 㟲. 㟳. 㟴. 㟵. 㟶. 㟷. 㟸. 㟹. 㟺. 㟻. 㟼. 㟽. 㟾. 㟿. 㠀. 㠁. 㠂. 㠃. 㠄. 㠅. 㠆. 㠇. 㠈. 㠉. 㠊. 㠋. 㠌. 㠍. 㠎. 㠏. 㠐. 㠑. 㠒. 㠓. 㠔. 㠕. 㠖. 㠗. 㠘. 㠙. 㠚. 㠛. 㠜. 㠝. 㠞. 㠟. 㠠. 㠡. 㠢. 㠣. 㠤. 㠥. 㠦. 㠧. 㠨. 㠩. 㠪. 㠫. 㠬. 㠭. 㠮. 㠯. 㠰. 㠱. 㠲. 㠳. 㠴. 㠵. 㠶. 㠷. 㠸. 㠹. 㠺. 㠻. 㠼. 㠽. 㠾. 㠿. 㡀. 㡁. 㡂. 㡃. 㡄. 㡅. 㡆. 㡇. 㡈. 㡉. 㡊. 㡋. 㡌. 㡍. 㡎. 㡏. 㡐. 㡑. 㡒. 㡓. 㡔. 㡕. 㡖. 㡗. 㡘. 㡙. 㡚. 㡛. 㡜. 㡝. 㡞. 㡟. 㡠. 㡡. 㡢. 㡣. 㡤. 㡥. 㡦. 㡧. 㡨. 㡩. 㡪. 㡫. 㡬. 㡭. 㡮. 㡯. 㡰. 㡱. 㡲. 㡳. 㡴. 㡵. 㡶. 㡷. 㡸. 㡹. 㡺. 㡻. 㡼. 㡽. 㡾. 㡿. 㢀. 㢁. 㢂. 㢃. 㢄. 㢅. 㢆. 㢇. 㢈. 㢉. 㢊. 㢋. 㢌. 㢍. 㢎. 㢏. 㢐. 㢑. 㢒. 㢓. 㢔. 㢕. 㢖. 㢗. 㢘. 㢙. 㢚. 㢛. 㢜. 㢝. 㢞. 㢟. 㢠. 㢡. 㢢. 㢣. 㢤. 㢥. 㢦. 㢧. 㢨. 㢩. 㢪. 㢫. 㢬. 㢭. 㢮. 㢯. 㢰. 㢱. 㢲. 㢳. 㢴. 㢵. 㢶. 㢷. 㢸. 㢹. 㢺. 㢻. 㢼. 㢽. 㢾. 㢿. 㣀. 㣁. 㣂. 㣃. 㣄. 㣅. 㣆. 㣇. 㣈. 㣉. 㣊. 㣋. 㣌. 㣍. 㣎. 㣏. 㣐. 㣑. 㣒. 㣓. 㣔. 㣕. 㣖. 㣗. 㣘. 㣙. 㣚. 㣛. 㣜. 㣝. 㣞. 㣟. 㣠. 㣡. 㣢. 㣣. 㣤. 㣥. 㣦. 㣧. 㣨. 㣩. 㣪. 㣫. 㣬. 㣭. 㣮. 㣯. 㣰. 㣱. 㣲. 㣳. 㣴. 㣵. 㣶. 㣷. 㣸. 㣹. 㣺. 㣻. 㣼. 㣽. 㣾. 㣿. 㤀. 㤁. 㤂. 㤃. 㤄. 㤅. 㤆. 㤇. 㤈. 㤉. 㤊. 㤋. 㤌. 㤍. 㤎. 㤏. 㤐. 㤑. 㤒. 㤓. 㤔. 㤕. 㤖. 㤗. 㤘. 㤙. 㤚. 㤛. 㤜. 㤝. 㤞. 㤟. 㤠. 㤡. 㤢. 㤣. 㤤. 㤥. 㤦. 㤧. 㤨. 㤩. 㤪. 㤫. 㤬. 㤭. 㤮. 㤯. 㤰. 㤱. 㤲. 㤳. 㤴. 㤵. 㤶. 㤷. 㤸. 㤹. 㤺. 㤻. 㤼. 㤽. 㤾. 㤿. 㥀. 㥁. 㥂. 㥃. 㥄. 㥅. 㥆. 㥇. 㥈. 㥉. 㥊. 㥋. 㥌. 㥍. 㥎. 㥏. 㥐. 㥑. 㥒. 㥓. 㥔. 㥕. 㥖. 㥗. 㥘. 㥙. 㥚. 㥛. 㥜. 㥝. 㥞. 㥟. 㥠. 㥡. 㥢. 㥣. 㥤. 㥥. 㥦. 㥧. 㥨. 㥩. 㥪. 㥫. 㥬. 㥭. 㥮. 㥯. 㥰. 㥱. 㥲. 㥳. 㥴. 㥵. 㥶. 㥷. 㥸. 㥹. 㥺. 㥻. 㥼. 㥽. 㥾. 㥿. 㦀. 㦁. 㦂. 㦃. 㦄. 㦅. 㦆. 㦇. 㦈. 㦉. 㦊. 㦋. 㦌. 㦍. 㦎. 㦏. 㦐. 㦑. 㦒. 㦓. 㦔. 㦕. 㦖. 㦗. 㦘. 㦙. 㦚. 㦛. 㦜. 㦝. 㦞. 㦟. 㦠. 㦡. 㦢. 㦣. 㦤. 㦥. 㦦. 㦧. 㦨. 㦩. 㦪. 㦫. 㦬. 㦭. 㦮. 㦯. 㦰. 㦱. 㦲. 㦳. 㦴. 㦵. 㦶. 㦷. 㦸. 㦹. 㦺. 㦻. 㦼. 㦽. 㦾. 㦿. 㧀. 㧁. 㧂. 㧃. 㧄. 㧅. 㧆. 㧇. 㧈. 㧉. 㧊. 㧋. 㧌. 㧍. 㧎. 㧏. 㧐. 㧑. 㧒. 㧓. 㧔. 㧕. 㧖. 㧗. 㧘. 㧙. 㧚. 㧛. 㧜. 㧝. 㧞. 㧟. 㧠. 㧡. 㧢. 㧣. 㧤. 㧥. 㧦. 㧧. 㧨. 㧩. 㧪. 㧫. 㧬. 㧭. 㧮. 㧯. 㧰. 㧱. 㧲. 㧳. 㧴. 㧵. 㧶. 㧷. 㧸. 㧹. 㧺. 㧻. 㧼. 㧽. 㧾. 㧿. 㨀. 㨁. 㨂. 㨃. 㨄. 㨅. 㨆. 㨇. 㨈. 㨉. 㨊. 㨋. 㨌. 㨍. 㨎. 㨏. 㨐. 㨑. 㨒. 㨓. 㨔. 㨕. 㨖. 㨗. 㨘. 㨙. 㨚. 㨛. 㨜. 㨝. 㨞. 㨟. 㨠. 㨡. 㨢. 㨣. 㨤. 㨥. 㨦. 㨧. 㨨. 㨩. 㨪. 㨫. 㨬. 㨭. 㨮. 㨯. 㨰. 㨱. 㨲. 㨳. 㨴. 㨵. 㨶. 㨷. 㨸. 㨹. 㨺. 㨻. 㨼. 㨽. 㨾. 㨿. 㩀. 㩁. 㩂. 㩃. 㩄. 㩅. 㩆. 㩇. 㩈. 㩉. 㩊. 㩋. 㩌. 㩍. 㩎. 㩏. 㩐. 㩑. 㩒. 㩓. 㩔. 㩕. 㩖. 㩗. 㩘. 㩙. 㩚. 㩛. 㩜. 㩝. 㩞. 㩟. 㩠. 㩡. 㩢. 㩣. 㩤. 㩥. 㩦. 㩧. 㩨. 㩩. 㩪. 㩫. 㩬. 㩭. 㩮. 㩯. 㩰. 㩱. 㩲. 㩳. 㩴. 㩵. 㩶. 㩷. 㩸. 㩹. 㩺. 㩻. 㩼. 㩽. 㩾. 㩿. 㪀. 㪁. 㪂. 㪃. 㪄. 㪅. 㪆. 㪇. 㪈. 㪉. 㪊. 㪋. 㪌. 㪍. 㪎. 㪏. 㪐. 㪑. 㪒. 㪓. 㪔. 㪕. 㪖. 㪗. 㪘. 㪙. 㪚. 㪛. 㪜. 㪝. 㪞. 㪟. 㪠. 㪡. 㪢. 㪣. 㪤. 㪥. 㪦. 㪧. 㪨. 㪩. 㪪. 㪫. 㪬. 㪭. 㪮. 㪯. 㪰. 㪱. 㪲. 㪳. 㪴. 㪵. 㪶. 㪷. 㪸. 㪹. 㪺. 㪻. 㪼. 㪽. 㪾. 㪿. 㫀. 㫁. 㫂. 㫃. 㫄. 㫅. 㫆. 㫇. 㫈. 㫉. 㫊. 㫋. 㫌. 㫍. 㫎. 㫏. 㫐. 㫑. 㫒. 㫓. 㫔. 㫕. 㫖. 㫗. 㫘. 㫙. 㫚. 㫛. 㫜. 㫝. 㫞. 㫟. 㫠. 㫡. 㫢. 㫣. 㫤. 㫥. 㫦. 㫧. 㫨. 㫩. 㫪. 㫫. 㫬. 㫭. 㫮. 㫯. 㫰. 㫱. 㫲. 㫳. 㫴. 㫵. 㫶. 㫷. 㫸. 㫹. 㫺. 㫻. 㫼. 㫽. 㫾. 㫿. 㬀. 㬁. 㬂. 㬃. 㬄. 㬅. 㬆. 㬇. 㬈. 㬉. 㬊. 㬋. 㬌. 㬍. 㬎. 㬏. 㬐. 㬑. 㬒. 㬓. 㬔. 㬕. 㬖. 㬗. 㬘. 㬙. 㬚. 㬛. 㬜. 㬝. 㬞. 㬟. 㬠. 㬡. 㬢. 㬣. 㬤. 㬥. 㬦. 㬧. 㬨. 㬩. 㬪. 㬫. 㬬. 㬭. 㬮. 㬯. 㬰. 㬱. 㬲. 㬳. 㬴. 㬵. 㬶. 㬷. 㬸. 㬹. 㬺. 㬻. 㬼. 㬽. 㬾. 㬿. 㭀. 㭁. 㭂. 㭃. 㭄. 㭅. 㭆. 㭇. 㭈. 㭉. 㭊. 㭋. 㭌. 㭍. 㭎. 㭏. 㭐. 㭑. 㭒. 㭓. 㭔. 㭕. 㭖. 㭗. 㭘. 㭙. 㭚. 㭛. 㭜. 㭝. 㭞. 㭟. 㭠. 㭡. 㭢. 㭣. 㭤. 㭥. 㭦. 㭧. 㭨. 㭩. 㭪. 㭫. 㭬. 㭭. 㭮. 㭯. 㭰. 㭱. 㭲. 㭳. 㭴. 㭵. 㭶. 㭷. 㭸. 㭹. 㭺. 㭻. 㭼. 㭽. 㭾. 㭿. 㮀. 㮁. 㮂. 㮃. 㮄. 㮅. 㮆. 㮇. 㮈. 㮉. 㮊. 㮋. 㮌. 㮍. 㮎. 㮏. 㮐. 㮑. 㮒. 㮓. 㮔. 㮕. 㮖. 㮗. 㮘. 㮙. 㮚. 㮛. 㮜. 㮝. 㮞. 㮟. 㮠. 㮡. 㮢. 㮣. 㮤. 㮥. 㮦. 㮧. 㮨. 㮩. 㮪. 㮫. 㮬. 㮭. 㮮. 㮯. 㮰. 㮱. 㮲. 㮳. 㮴. 㮵. 㮶. 㮷. 㮸. 㮹. 㮺. 㮻. 㮼. 㮽. 㮾. 㮿. 㯀. 㯁. 㯂. 㯃. 㯄. 㯅. 㯆. 㯇. 㯈. 㯉. 㯊. 㯋. 㯌. 㯍. 㯎. 㯏. 㯐. 㯑. 㯒. 㯓. 㯔. 㯕. 㯖. 㯗. 㯘. 㯙. 㯚. 㯛. 㯜. 㯝. 㯞. 㯟. 㯠. 㯡. 㯢. 㯣. 㯤. 㯥. 㯦. 㯧. 㯨. 㯩. 㯪. 㯫. 㯬. 㯭. 㯮. 㯯. 㯰. 㯱. 㯲. 㯳. 㯴. 㯵. 㯶. 㯷. 㯸. 㯹. 㯺. 㯻. 㯼. 㯽. 㯾. 㯿. 㰀. 㰁. 㰂. 㰃. 㰄. 㰅. 㰆. 㰇. 㰈. 㰉. 㰊. 㰋. 㰌. 㰍. 㰎. 㰏. 㰐. 㰑. 㰒. 㰓. 㰔. 㰕. 㰖. 㰗. 㰘. 㰙. 㰚. 㰛. 㰜. 㰝. 㰞. 㰟. 㰠. 㰡. 㰢. 㰣. 㰤. 㰥. 㰦. 㰧. 㰨. 㰩. 㰪. 㰫. 㰬. 㰭. 㰮. 㰯. 㰰. 㰱. 㰲. 㰳. 㰴. 㰵.